

平成20年4月24日

平成20年度の運営にあたり

筑波大学長 岩崎 洋一

平成20年度は、法人化後4年間で整備してきた運営基盤の上に、大学本来の使命である教育研究活動とその質の向上に向けた取り組みに一層専念できる環境を整えるとともに、筑波大学の将来像とそれに至る道筋を明らかにした上で、次なる飛躍の土台づくりを行う一年と位置づけ、以下に述べる施策に重点的に取り組んでいきたいと考えています。

一つ目は、**教育の質の向上に向けた取り組みの強化**です。学士課程教育においては、教養教育の充実を最重要課題と位置づけ、長期的視点からその再構築を進めるとともに、昨年度作成・公表した「筑波スタンダード」の内容のさらなる充実を図ります。大学院においては、特に博士後期課程の定員充足率の低下が問題となっており、本学においてもTA・RA経費を増額するなどの対策を講じているところですが、教育研究の質をさらに高め、国際的な評価に耐え得る水準を確保することがすべてのベースになるとの認識に立って、大学院教育の実質化・高度化に取り組んでまいります。さらに、学士課程と大学院の双方においてFDやカリキュラムの構造化等への取り組みも強化し、教育の質の向上を図ってまいります。

二つ目は、**研究のさらなる活性化に向けた支援の強化**です。大学への公的資金配分において基盤的経費が減少し、競争的資金が拡大する傾向にあることを踏まえ、競争的資金の獲得支援を強化するとともに、独創的な個人研究や若手研究者の支援から、将来の拠点につながるグループ研究、世界的拠点の形成に至るまで、戦略イニシアティブ推進機構の充実も図りながら支援してまいります。また、知的財産戦略のあり方を含め、産学官連携を一層促進するための基盤も強化してまいります。

三つ目は、**学生支援の充実**です。総合的な学生支援を行うための窓口として昨年度設置したスチューデントプラザの機能を充実させ、学生サービスの一層の向上を図るとともに、大学院生に対する学生支援・キャリア支援にも注力してまいります。学生宿舎については、施設の老朽化や居住環境の改善が課題となっていますが、教育面における効果や大学院生への経済的支援、留学生の受入環境の整備などの観点も含めて抜本的なリニューアルプランを策定する必要があると考えています。また、総合交流会館内に茗溪会筑波事務所が設置されたことを機に、同窓ネットワークの構築を推進してまいります。

四つ目は、国際戦略の強化です。本年4月、国際連携に関する企画・推進機能の抜本的強化等を目的として、国際部を設置しました。この新たな体制の下で、本学の特色を活かした国際戦略を構築し、国際交流協定の質的強化・新規協定の促進や新たな海外拠点の設置など、国際連携の充実に向けた取り組みをさらに強化していきたいと考えています。また、留学生が伸び伸びと学び、交流することのできるキャンパス環境の実現や、国際化に対応できる人材の確保・育成に資するシステムの構築など、いわば“内なる国際化”の徹底も図ります。

五つ目は、筑波研究学園都市や大学間、地域・社会との連携の推進です。昨年、本学と各独法研究所、茨城県、つくば市等の連携により「つくばエコシティ構想」が立案され、その先行プロジェクトとして「つくば環境・エネルギー・経済（3E）プログラム」がスタートしました。知の集積効果を発揮して社会に貢献していくことは筑波研究学園都市の重要な使命であり、本学はその中核的機関として、この3Eプログラムをはじめとして各研究機関との連携を推進します。また、国公私を問わず積極的に大学間の連携を進めるとともに、地域・社会貢献活動も一層促進し、教育研究のさらなる充実・活性化を図ります。

六つ目は、附属病院再開発計画の推進です。本学では、高度先端医療、先進的医学教育、臨床医学の力となるべき研究を確実に推進・持続発展させるために、産・官・学の英知を結集するとともに地域とも密接に連携し、病院経営のさらなる健全化を図りつつ、我が国のモデルとなる医療提供体制の構築を進めることを目指して、附属病院の再開発を計画しています。この病院再開発を効率的かつ効果的に実施していくために、国立大学法人の附属病院では初めてのPFI方式による事業化を目指して準備を進めているところであり、引き続きその推進に努めてまいります。

七つ目は、法人化後4年間の実績を踏まえた業務運営基盤の充実です。国立大学法人評価への対応、試行結果を踏まえた教員評価システムの整備、組織評価システムの整備、教育研究組織の活性化に資する新たな人事システムの検討、職員組織の活性化と職務遂行能力の向上、業務運営の効率化・迅速化、情報環境基盤の整備方針と計画的整備の推進、大規模改修の円滑な実行、基金の創設、東京キャンパスの将来構想など、取り組むべき課題は多岐にわたりますが、それぞれの実施スケジュールを明確にして着実に実施してまいります。

最後は、2020ビジョンの策定と次期中期計画の策定方針を明らかにすることです。教学や経営に関する基礎的データの可視化をさらに進めて本学の現状を的確に認識するとともに、19年度に行った議論や学内対話等を通じて得られた意見・提案を踏まえながら、2020ビジョンと機能別戦略を策定し、広く学内外に明示したいと思います。その上で、2020ビジョンの着実な実施に向けた施策を次期中期計画に落とし込むべく、その策定方針を明らかにしたいと考えています。

これまで以上に、学外との交流をさらに進めながら、本学のさらなる飛躍に向けて全力を尽くしていきたいと考えております。

皆さんのさらなるご支援とご協力をお願いして、新年度の所信とします。